



浦添大公園

ニュースレター
うらしー
2021年10月号



利用者の皆様へ

来園する際には新型コロナウイルス感染症対策をお願いします。

公園の自然 秋に目立つチョウたち

ツマムラサキマダラ

浦添大公園で本種が初めて記録されたのは1995年7月5日、翌年に記録はなく1997年から記録が増えるようになりました。1970年代に八重山で記録されるようになり、沖縄島では1982年うるま市、1983年南城市1984年同じく南城市で各1頭成虫が採集され、その後は記録がなかったのですが、1992年頃から急に増え始め、今では何処にでも見る事の出来る普通のチョウになりました。



リュウキュウアサギマダラ

雌雄とも飛び方は他のチョウに比べてたいへんゆるやかです。成虫は1年中見る事が出来、特に秋遅くに個体数が増えます。12月下旬から1月にかけて急激な気温の低下の際には集団になることがあります。森の中のツルや枯れ枝に鈴なりに止まり、寒い時は指でつまむことが出来るほどです。一つの集団で数十くらい、周囲にいくつもあるので数百を数えることもあります。集団の出来る寒い朝、観察に行くと、集まっていた個体は気温の上昇とともに飛びますが夕方にはもとに戻ります。



アサギマダラ

このチョウ、いまの時期全国から注目を集めています。鳥と同じように南北、長距離の移動をします。いわゆる渡りすることから、各県とも渡りの調査のため「標識」と称し、翅に月日、場所、記号を書いた人のイニシャルをマジックで書いて放蝶するイベントを行っています。実際、小学校の生徒が標識したチョウが南下地の各県で毎年のように記録されています。夏、標高の高い高原に咲いている場所に集結し、気温の低下とともに上昇気流を利用して、随時南下を始めます。南下する飛来地はほぼ決まっていますアサギマダラの好きな花を植えて、待ち構えています。フジバカマ等のキク科の花にチョウ多量に来るので、各県では撮影会なども開催されています。



ヒメアカタテハ

本種は、世界的に旅する蝶として知られていて、ユーラシア大陸に広く分布しています。そのためか、沖縄での生態が一部しかわかってないチョウです。成虫は1年を通して記録されるのですが、数は少ないのです。1959年～2020年までの沖縄島で記録された個体数を月別にみると、最も多いのは9～11月にかけてです。1～2月、6～7月は少なく、3～5月はやや増えます。



イシガケチョウ

石垣に似ていることから、イシガキチョウの別名も付けられています。チョウの仲間では珍しく、翅を開いて止まる習性があり、特に葉の裏に止まります。観察会では、蛾の仲間なのですかとよく聞かれます。飛ぶスピードは早くなく、タテハチョウ仲間特有の、はばたいて滑空し、木々の葉に止まります。長い距離は飛びません。成虫は1年中発生し、初夏と秋に個体数が増加、野山、民家周辺、公園等で普通に見る事が出来ます。初夏の晴れた日、河原に集団で吸水する光景は圧巻です。タテハチョウ科イシガケチョウは、翅の地色が白で黒から茶褐色の網模様の入ったチョウです。



リュウキュウミスジ

奄美以南から八重山諸島に、国外では中国、インド、東洋分布する熱帯系のチョウです。茶褐色の地色に3つの白い斑紋が列になっていることから、名前が付けられました。亜熱帯の沖縄は温帯、熱帯系のチョウたちが分布し、成虫の見られる時期、いわゆる発生状況も様々です。本種は熱帯系に属しているためか成虫は1年中記録されていて、とっとも寒い一時期、ものすごく暑い時期に見かける成虫の数が少なくなります。成虫は春先から徐々に個体数は増して、秋に多くなります。



イベント情報 秋のチョウ類自然観察会

- 日 時: 10月9日(土) 9:30～11:00
- 場 所: 浦添大公園(遊び広場駐車場集合) 定員10人
- ※定員に達し次第しめきります。
- 料 金: 1000円(資料費込み) 参加申し込み先: 浦添大公園管理事務所 098-873-0700



浦添大公園ニュースレター うらしー 2021年10月号

浦添大公園管理事務所 〒901-2132 沖縄県浦添市仲間2-53

TEL(098)873-0700 FAX(098)873-0714 <https://urasoedaipark-osi.jp>

指定管理者 おきなわスポーツイノベーション協会 編集・発行: 比嘉正一

